

## 九州の工場立地と製造業の動向

### はじめに

世界的な金融危機の影響が九州にも波及し、急速な需要減少に見舞われた製造業は、活発だった生産活動から一転して生産調整の動きを強め、工場新設や増設の動きは2008年上期以降、慎重なものへと変化しつつあります。このレポートでは、「工業統計調査（経済産業省）」と\*「九州の工場立地動向調査（九州経済産業局）」を元に、九州の工場立地と製造業出荷額の動向について振り返り、鉱工業生産指数により製造業の現状を考察します。

\*九州経済産業局が実施している工場立地動向調査で計上されているのは、製造業、電気業（水力・地熱発電所を除く）、ガス業、熱供給業のための工場又は事業場を建設する目的をもって、1,000㎡以上の用地を取得（借地を含む）した者としています。

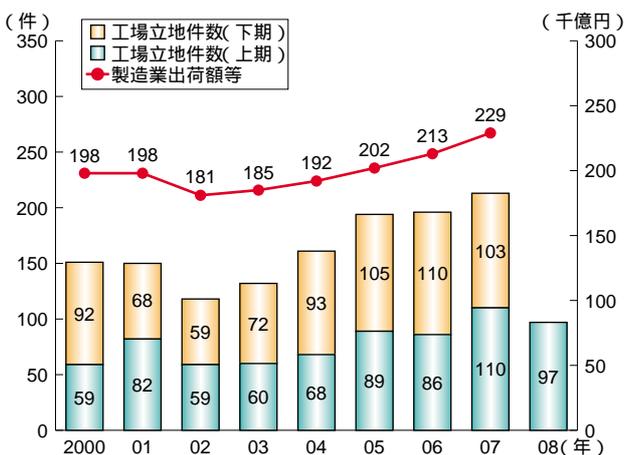
### 1. 九州における工場立地動向

#### (1) 立地件数の推移

##### 製造業出荷額増加を支えた好調な工場立地

九州7県の製造業出荷額は2002年の18兆1,000億円をボトムに、活発な工場立地の動きとともに増加へと転じ、07年には02年比27.6%増の22兆9,000億円へと増加しました。しかし、その伸びを支えてきた工場立地の動きをみると、08年上期（1～6月）は前年同期比13件の97件にとどまりました。また、下期（7～12月）に入って経済環境の急激な変化などにより、工場立地に対する企業の姿勢は慎重なものへと変わってきています。続いて、02年から07年にかけての業種別の状況を整理してみます。

図1 九州の工場立地件数と製造業出荷額等の推移



(出所 九州経済産業局「九州の工場立地動向調査」、経済産業省「工業統計調査」)

#### (2) 業種別での立地状況(02年～08年上期)

##### 立地件数は一般機械器具が最多

表1 業種別の工場立地件数

産業	02年～07年		08年上期	
	立地件数	構成比(%)	立地件数	構成比(%)
一般機械器具	165	16.6	15	15.5
食料品	139	14.0	8	8.2
金属製品	125	12.6	22	22.7
輸送用機械器具	96	9.7	6	6.2
電気機械器具	91	9.2	8	8.2
電気機械器具	43	4.3	6	6.2
電子部品・デバイス	38	3.8	1	1.0
情報通信機械器具	10	1.0	1	1.0
プラスチック製品	75	7.5	14	14.4
その他	303	30.5	24	24.7
立地件数合計	994	100.0	97	100.0

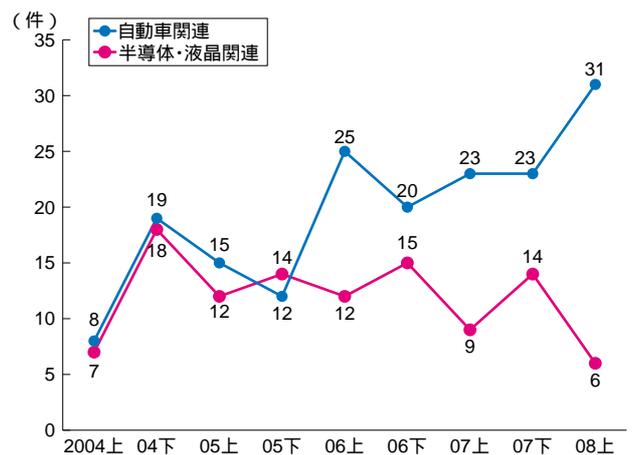
(注)「一般機械器具」は「はん用機械」「生産用機械」「業務用機械」の合算

(出所)九州経済産業局資料をもとに FFG 作成

02年～07年にかけて九州7県に立地した工場（電気、ガス、熱供給業を除く）を業種別でみると（表1）、件数で最も多かったのは一般機械器具（165件）、次に食料品（139件）、金属製品（125件）と続いています。加工組立型の一般機械器具、金属製品、輸送用機械器具のほか、食料品の工場立地も堅調でした。08年上期も97件の立地があり、活発な状況が続きました。

次に、九州の製造業の大きなウェイトを占めている自動車と半導体・液晶の関連産業について、立地件数を半期毎に集計したのが図2です。自動車関連産業の立地件数は04年上期以降、増加基調で推移し、直近の08年上期においても31件と高い水準にあったことがわかります。一方、

図2 九州における自動車、半導体・液晶関連等の立地件数



(出所)九州経済産業局「九州の工場立地動向調査」

半導体・液晶関連産業は、04年下期での18件のピーク以降、10件以上の実績がコンスタントに続いています。07年上期、08年上期は10件を下回るなど、徐々に減少する状態にありました。

### (3)各県別での立地状況

**自動車関連は福岡県、半導体・液晶関連は熊本県に多く立地**

図3 九州各県の自動車、半導体・液晶関連工場立地件数(02年上期～08年上期)

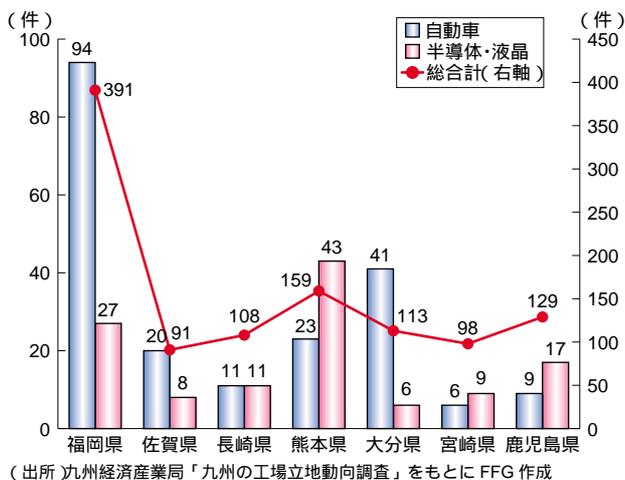


図3は工場立地件数がボトムだった02年上期から直近の08年上期までの総件数と、自動車と半導体・液晶関連の立地件数を、九州各県別に整理したものです。

自動車関連工場の立地は、トヨタ自動車九州や日産自動車九州工場などが操業している福岡県(94件)が最も多く、続いてダイハツ九州大分工場のある大分県(41件)、熊本県(23件)などとなっています。

半導体・液晶関連工場の立地が多かったのは、豊富な水資源などの条件を備えている熊本県(43件)のほか、福岡県(27件)、鹿児島県(17件)などです。

立地件数の総合計をみると、自動車、半導体・液晶関連立地が多い福岡県(391件)と熊本県(159件)に集中しています。続いて鹿児島県(129件)、大分県(113件)の立地が多くなっています。

## 2.九州における製造業出荷額の動向

03年以降、九州においても工場立地が活発化するとともに、製造業出荷額等も順調に増加し

ました。ここでは、業種別での動きを見てみます。

### 製造出荷額の増加率が高かったのは基礎素材型と加工組立型産業

九州7県の07年の製造業出荷額等は、輸出型製造業が主導し22兆8,830億円に達し、02年比26.7%増加しています(表2)。

産業構成比が上位にあり増加率が高かった業

表2 九州7県の製造業出荷額等の変化(02年～07年)

(単位:億円)

九州	07年	構成比(%)		増減率(%) 02年～07年
		02年	07年	
地方資源型	58,783	30.8	25.7	5.6
食料品	26,657	13.7	11.6	7.9
飲料・たばこ・飼料	15,110	7.8	6.6	6.7
繊維工業	2,384	1.6	1.0	18.5
窯業・土石製品	8,944	4.7	3.9	6.4
パルプ・紙加工品	3,611	1.7	1.6	14.6
木材・木製品	2,078	1.3	0.9	9.6
雑貨型	10,845	5.6	4.7	8.1
家具・装備品	1,702	1.1	0.7	16.0
印刷・同関連	4,099	2.4	1.8	5.2
プラスチック製品	5,045	2.0	2.2	37.2
基礎素材型	44,447	14.6	19.4	68.2
化学工業	15,929	5.9	7.0	49.8
石油・石炭製品	6,941	1.9	3.0	101.4
鉄鋼業	17,452	5.1	7.6	89.9
非鉄金属	4,125	1.7	1.8	30.5
加工組立型	105,957	45.0	46.3	30.3
金属製品	9,233	4.8	4.0	7.0
一般機械器具	19,128	7.3	8.4	45.6
電気機械器具	15,706	5.3	6.9	63.5
電子部品・デバイス	22,739	11.2	9.9	12.8
輸送用機械器具	37,267	15.6	16.3	32.4
精密機械器具	1,883	0.9	0.8	12.6
その他	8,798	4.0	3.8	22.5
製造業計	228,830	100.0	100.0	26.7

(注) 秘匿等によるデータ不明業種はその他に集約  
(出所)経済産業省「工業統計表」、各県「2007年工業統計調査(速報)」

図4 九州における業種別出荷額の推移

(構成比上位8業種(2002年=100))

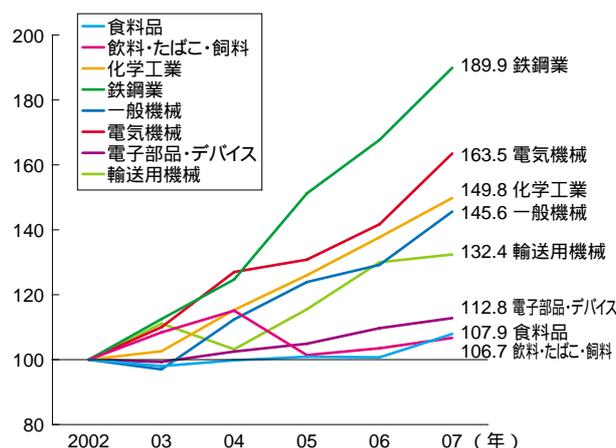


図5 - ① 鉄鋼業の生産指数の推移  
(2005年 = 100)

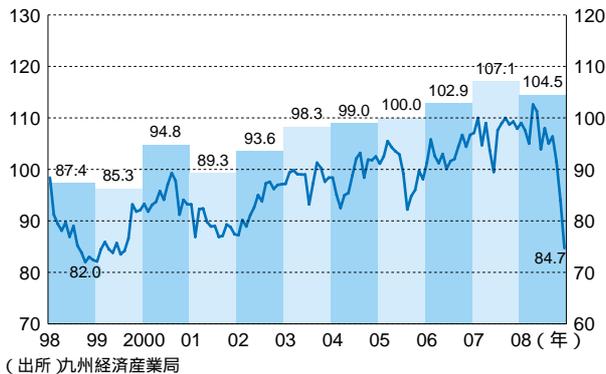


図5 - ② 化学工業の生産指数の推移  
(2005年 = 100)

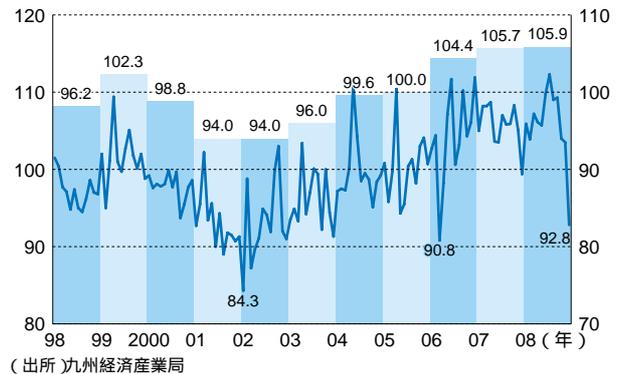
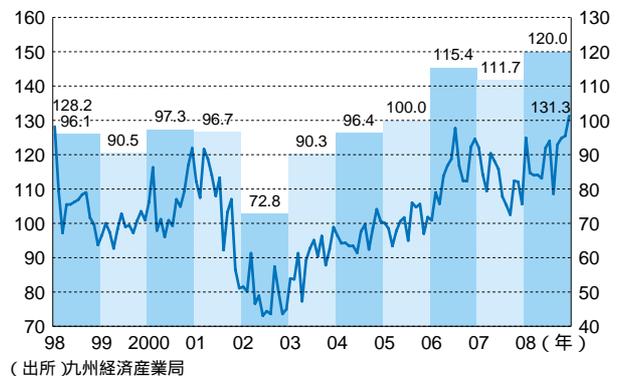


図5 - ③ 一般機械工業の生産指数の推移  
(2005年 = 100)



図5 - ④ 電気機械工業の生産指数の推移  
(2005年 = 100)



種は、基礎素材型産業の鉄鋼業(89.9%増)、化学工業(49.8%増)などでした(図4)。加工組立型産業では、電気機械器具(63.5%増)、一般機械器具(45.6%増)、輸送用機械器具(32.4%増)の増加率が高くなっています。

一方、減少したのは繊維工業(18.5%減)、家具・装備品(16.0%減)、木材・木製品(9.6%減)など、国内向け出荷が多い地方資源型や雑貨型の産業でした。

### 3. 指数にみる九州の鉱工業生産水準

製造業出荷額は07年まで順調に増加していましたが、08年の10月以降、輸出型製造業を中心に殆どの業種の生産指数が急低下しています。続いて、主要業種の生産状況を、鉱工業生産指数(2005年 = 100)からみていきます。主要業種の生産指数の動きを図5 - ① ~ ④に、月単位(折線・左軸)と年単位(棒線・右軸)で示しています。

#### ①鉄鋼業

【08年12月の指数水準】 84.7  
【08年の指数水準】 104.5

単月の指数は、98年ボトムの水準(82.0)近くにまで低下している。

#### ②化学工業

【08年12月の指数水準】 92.8  
【08年の指数水準】 105.9

単月の指数は06年のボトム水準(90.8)に近い

08年に直近のピークがあり、08年の指数水準は高い

#### ③一般機械工業

【08年12月の指数水準】 81.8  
【08年の指数水準】 103.0

07年1月をピークに徐々に低下傾向にあり、08年12月に急低下している

#### ④電気機械工業

【08年12月の指数水準】 131.3  
【08年の指数水準】 120.0

太陽電池モジュールや風力発電関連の生産が牽引し、生産指数は増加している

02年を谷として増加に転じ、現在まで生産指数の増加が続いている

図5 - ⑤ 電子部品・デバイス工業の生産指数の推移  
(2005年 = 100)



図5 - ⑦ 自動車関連工業の生産指数の推移  
(2005年 = 100)



## ⑤ 電子部品・デバイス工業

【08年12月の指数水準】 82.1  
 【08年の指数水準】 123.5  
 08年12月の指数は前月比32ポイント低下し、02年のボトム水準(85.9)に接近

## ⑥ 輸送機械工業

【08年12月の指数水準】 90.7  
 【08年の指数水準】 121.3  
 08年12月の指数は04年のボトム水準(83.9)近くまで急低下している

## ⑦ 自動車関連工業

【08年12月の指数水準】 80.9  
 【08年の指数水準】 116.2  
 08年10月から急低下し、05年のボトム(87.2)よりも低い水準となっている

## ⑧ 半導体関連工業

【08年12月の指数水準】 79.5  
 【08年の指数水準】 122.4  
 07年12月をピークに低下し始め、08年10月から急低下し、03年のボトム(82.8)よりも低い水準となっている

図5 - ⑥ 輸送機械工業の生産指数の推移  
(2005年 = 100)



図5 - ⑧ 半導体関連工業の生産指数の推移  
(2005年 = 100)



## 太陽電池や風力発電により電気機械は増加

多くの業種が07年から08年に生産のピークを迎え、08年10月以降に急低下しています。特に、鉄鋼業、電子部品・デバイス、自動車関連、半導体関連では、近年最も低い水準にまで一気に生産指数は低下しています。そうしたなかであって、電気機械のみは太陽電池、風力発電関連の生産の増加により、指数は増加しました。

## おわりに

好調だった輸出型製造業を中心に減産の動きが顕在化し、工場立地の延期や既存工場の再配置など先行き不透明感が広がっています。しかし、現在留意すべきことは、低下している生産水準が過去からの生産規模のどれくらいの位置にあるのかなど、客観的に現状を把握し対応を図ることだと考えます。

急速な減産の影響が懸念される一方で、太陽電池関連などの生産は増加しています。速やかな生産調整の進展とともに、新たな産業分野の活発な生産活動が、製造業全体に波及していくことが期待されます。  
(島浦 誠)